平成 28 年度 議会報告と意見交換会における「市に対する意見・要望及び回答」

番号	会場で出された意見・要望等	市　か　ら　の　回　答
1	人口減少が進む中で、統合中学校の存続は可能か？また、中学校統合に伴う新校舎建設は、今後市の財政負担にならないか。 中学校統合にかかる予算は、どのような財源になるのか。	赤平市立中学校としては１校体制になるので、人数が減少しても基本的に学校は無くならないと考えます。財政負担は当然増えるとは考えますが、国庫負担金及び過疎対策事業債（償還費の７０％交付税参入）の財源により、可能な限り財政負担の軽減化を図りたいと考えています。
2	市役所の職員配置人数は適切なのか。	職員の配置につきましては、事務量に見合った人員配置の見直しや、重要度の高い事務事業に重点的に職員を配置するなど、適正な定員管理に努めているところですが、今後におきましても、組織機構の再編や事務事業の見直しなどの取組みにより職員の適正配置に努めてまいりたいと思います。
3	庁舎内の案内看板の設置と接客の意識をさらに高めてほしい。	コミセン入り口付近を整理し、お客様の目に付くよう工夫し、案内板を設置してまいります。 また、お客様のニーズをしっかりお聞きし、お客様のお求めになっている窓口をご案内するなど、接客の意識をもって対応してまいります。
4	農業が衰退している。起業する人の体制を含めてフォローしてほしい。	赤平の農家数は減少していますが、衰退はしてないと思っています。農地は担い手に引き継がれ維持されており、市としても後継者育成のため、資格取得の費用や研修会等の交通費の助成などを行っており、そのほかにも関係機関などと連携しながら、必要に応じたフォローの方法を協議してまいります。

5	高齢者表彰、長く務めた人が受賞されたとき、副賞を検討してほしい。例えば「まごころ商品券」など。	高齢者を対象とした表彰で、今のところ新規に副賞を贈呈する予定はありません。なお、百歳の方へは総理大臣表彰状を入れる「額縁」を、金婚式の記念品には、市内の「匠塾」が作成した品物（平成２７年度は写真立）をお渡ししております。
6	指定管理を受けている町内会館について、市と交わしている協定書の中で、文書の表現が適切に感じられない部分が見当たる。 それらについて、見直しをしてほしい。	ご質問の部分は、指定管理業務基本協定書の「修繕等実施基準」の部分と思われます。たとえば、外壁については、「モルタル壁の破損」と限定した記述となっており、「サイディング壁の破損」などの記述がなく、実情に合った記述となっておりません。その他の記述も含め、実情に合うよう見直しを行う予定としています。
7	市役所を訪ねた際、窓口に先客がいたため、１Ｆフロアで十数分ほど待っていたが、職員の誰からも声が掛からなかった。市民を待たせたまま無関心ではないか。	窓口（カウンター）に来られた市民の方には、できるだけ待たすことがないよう対応します。ロビーのイスへ座っている方に対しては、休憩しているのか、対応を待っているのかを確かめるように対応してまいります。
8	花火大会の駐車場の確保対策を望む。	当市の花火大会は、市民からの寄附金を募りながら5、000発の花火の打ち上げを継続しており、好評を得て年々来場者数が増加傾向にありますので、駐車場の確保について検討してまいります。
9	旧農業試験場付近の市有地の利用方法は？また、農地不足や後継者問題の対応は？	旧農業試験場跡地は、赤平市の農業者に呼びかけ、農地として再利用してまいります。 また、農地不足や後継者の問題につきましては、現在、旧農業試験場跡地以外に市が保有する農地はありませんが、今後も農業委員会や関係団体と協議し対応してまいります。

10	統合中学の通学について、バス停の遠い生徒などを対象に、スクールバス等の利用を考えられないか。 統合された後、中学生の通学はどうなるのか。住吉地区はどうなるのか。	現在、茂尻・平岸地区に居住している中央中学校へ通学する生徒は、定期券を現物支給する方法により、路線バス利用の通学になっていますので、統合した場合もこの方法を継続（ただし、対象者は現茂尻小学校の通学区域に拡大。）することで考えています。なお、スクールバスの利用は、小学校の送迎もあることから困難と考えます。 また、住吉地区は、路線バスの利用が困難なため、以前赤平中学校に対象者がいたときと同様の方法（通学費の助成等）により対応することを考えています。
11	工業団地の用地と国道用地の間の市有地は、どのような状況にあるのか。	工業団地造成にあわせて、国道 38 号の 4 車線化について毎年国に対して要望しており、将来の道路用地を確保するため引き続き市有地として保有してまいります。
12	老人施設の充実を望む。サ高住が建設されても家賃が高く入居できない。	市内では有料老人ホームの事業者において、定員 29 人の予定で増設工事が行われており、さらには経費老人ホームにおいて、定員２０人程度の増設を予定している事業所もあり、高齢者施設の増設が図られる予定となっております。 サ高住については、市内事業者に建設計画等を打診しておりますが、今のところ予定している事業者はない状況です。 サ高住は、食事や２４時間の見守り等のサービスが提供されることから、入居費用が高額となっています。 今後、市として建設費用に対する助成や遊休市有地の活用により建設コストの低減を図ることなどによって、入居費用を抑える方策を検討してまいります。

13	中学校統合によって、教員住宅はどのようになるのか。	全体的に老朽化が進んでいることや、単身赴任の校長・教頭が増加している事情などにより、民間住宅利用を視野に必要な個数を把握しながら、用途変更など集約化を図りたいと考えています。
14	赤平市は農業をどのように考えているのか。また、6次産業化は採算性の問題で手が出せない。	これからは、暗渠排水や基盤の整備によって、作業性と生産性の向上を図ることにより、収量増と品質を高め農産物の特産品化、そして6次産業化に向けて農業者ではなく、加工業者や販売業者と分担することによって、農家負担を軽減し生産性や農家の所得増を考えてまいります。
15	住民の減少により、防犯灯の維持ができないので何か方法はないか。また、防犯灯のポールが腐食し、転倒などの恐れがある。事故が起きた場合、誰が責任を取るのか。	防犯灯の維持につきましては、平成22年度にＬＥＤ灯またはナトリウム灯に省エネ改修費用を100%助成し、さらに、電気代の助成率を65%に引き上げるなど、維持費負担の軽減に努めております。 防犯灯のポールの倒壊による事故の報告はございませんが、一般的には所有者が管理責任を負うこととなりまので、危険箇所が確認され更新が必要な場合は、ご相談をいただき防犯協会と協議させていただきます。
16	過去に新春日団地の建替えは、7棟と聞いていたが4棟で終了したとのこと。残りの3棟分で、シルバーハウジングを建設できないか。茂尻地区の高齢者が、各地区のシルバーハウジングに入居する事で茂尻の人口が減って、茂尻の商店街に影響が出ている。 茂尻にシルバーハウジングを建ててほしい。最近も友人が幸町のシルバーハウジングに転居した。6月議会の一般質問に対しての答弁では、できないと言うように聞こえたがどうなのか。	新春日団地の建替えについては、当初計画では7棟72戸建設の計画でしたが、移転対象者の減少から現在の4棟40戸建設で完了となっています。 茂尻地区へのシルバーハウジングの建設は、現在、本市には4団地132戸のシルバーハウジングが整備されており道内においても高い整備水準にあることや、建設費用、その後の管理費用、現在進めている建替事業への影響、さらに公的住宅依存度が高い本市の現状など検討課題が多くあることから、新たな建設は難しい状況にあります。